

### 1. 細胞診講習会のお知らせ

2015 年細胞診講習会は、2 月 14 日 (土), 15 日 (日) に慶應義塾大学で開催されます。P.4 の「2015 年 細胞診講習会のお知らせ」をご参照の上、本学会ホームページ 11 月 4 日付記事

<http://pathology.or.jp/news/whats/cytology2015.html>  
 内「細胞診講習会受講申し込みサイト」よりご登録下さい。  
 申し込み締切は 12 月 12 日 (金) です。

### 2. 第 8 回診断病理サマーフェストー病理と臨床の対話ー開催報告

公益財団法人がん研究会 がん研究所病理部 秋山 太  
 (第 8 回診断病理サマーフェスト担当世話人)

毎年夏の恒例企画である日本病理学会主催『診断病理サマーフェスト』が、今年も開催されましたのでその概要を報告致します。

今年の診断病理サマーフェストは 2014 年 8 月 23 日 (土) 13:30-18:50・24 日 (日) 9:00-12:00 に東京大学伊藤謝恩ホールで、「乳腺診療のための病理診断」をテーマに参加費 20,000 円 (初期・後期研修医, 大学院生 15,000 円) で開催されました。2014 年 5 月に申し込み受付が開始され、最終的な参加者は 331 名で、その内訳は日本病理学会会員 251 名 (75.8%), 非会員 80 名 (24.2%) でした。非会員の主な内訳は、乳腺外科医 19 名, 放射線科医 22 名, 外科医 11 名, 内科医 2 名でした。講師陣は必要最低限の人数に抑え、出来るだけ開催地である東京近郊に絞りました。

診断病理サマーフェストの目的は、病理診断の醍醐味・面白さを臨床医に知ってもらい、病理に興味を持つ臨床医を増やすことにあるという認識のもとに、病理と臨床の対話の中で病理診断の重要性をアピールできればと企画を練りました。テーマを「乳腺診療のための病理診断」とし、具体的には画像と病理の対比, 外科療法と病理診断, 薬物療法と病理診断というように乳腺診療の各領域に病理診断がいかに重要な役割を果たしているかを表現できるよう工夫しました。第一日目は病理と臨床の対話を主とし, 第二日目は病理医向けの病理診断を主としました。第二日目の乳腺腫瘍の組織学的分類では、講演の後に講師による討論を取り入れてみました。

アンケート調査で 187 名の方からのいろいろなご意見を聞くことが出来ました。病理診断講習会的な内容を期待さ

れて参加された病理医には少々物足りなかったかもしれませんが。ハンドアウトにメモの欄を設けたために厚くなってしまいました。貴重なご意見を今後活かせればと思います。総合評価では「非常に良かった」27%, 「良かった」54%, 「普通」13%, 「要改善」3% という結果でした。

第 8 回診断病理サマーフェストは、多くの方々に支えられて無事に終わることが出来ました。参加して頂いた先生方, 講師・座長の先生方, お世話して頂いた牛久哲男先生をはじめとする東京大学医学部人体病理学・病理診断学教室の先生方, 菊川さんをはじめとする日本病理学会事務局の方々に深謝致します。最後に、このような機会を与えて下さった日本病理学会に御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 3. 英国病理学会交流事業報告

国際交流委員会では、英国病理学会との交流事業を行っています。このたびの英国病理学会について、シニア研究者 1 名の招聘, ジュニア研究者 2 名の派遣がございましたので、その報告を掲載いたします。

#### (1) シニア研究者招聘

笹野 公伸 東北大学大学院病理診断学分野

2014 年 8 月 30 日から 9 月 3 日まで英国ロンドンで開催された英国病理学会学術集会に参加した。今回は欧州病理学会と合同での開催となり欧州ばかりではなく中近東ロシア他などからもあわせて数千名の参加者があった。8/31 には Pathological Society/Japanese Society of Pathology Lecture として Ian Ellis 教授のご司会で Clinical relevance of AR and ER beta expression in triple negative breast cancers と題して講演を行った。

加えて英国病理学会の役員と今後の日英病理学会の交流に関して意見交換を行う事が出来た。

#### (2) ジュニア研究者派遣

浅香 志穂

信州大学医学部医学科病態解析診断学講座

このたび日英病理学会国際交流事業の一環として、ヨーロッパ病理学会と英国病理学会の共催による、2014 年 8 月 30 日から 9 月 3 日までロンドンで開催された 26th European Congress of Pathology に参加させていただきました。さらにその後、ロンドンから鉄道で 2 時間程度に位置する、シェフィールドの University of Sheffield Health Sci-

ences Library Royal Hallamshire Hospital, その近郊のチェスターフィールドの Chesterfield Royal Hospital の施設見学をさせていただきました。

先に行われた学術集会では、ポスター発表をさせていただき、また英国病理学会 Trainee (後期研修医) によって企画・運営されたレクチャーやスライドセミナーに参加し、彼らとの意見交換の場を持つことができました。このような 20-30 代の若手病理医が運営する学術集会での企画は、我々日本の病理医にとっては斬新であり、Trainee の積極性や勤勉さを垣間見ることができました。

施設見学においては、シェフィールド大学の大学病院である Health Sciences Library Royal Hallamshire Hospital では、病理医教育の様子や、解剖施設、最新の研究施設を見学させていただき、地域の中核病院である Chesterfield Royal Hospital では、実際の病理診断の様子や切り出し業務などの病理標本の作製過程を見学させていただきました。病理教育や診断業務は日本のものとそれほど大きな違いはないと感じましたが、業務の効率性は特に重視されており、病理医の業務を補助する人材が日本より充足している印象でした。

今回の滞在期間において、日本と英国の病理の違いで最も印象に残ったのが、病理医の、特に Trainee の多彩さでした。英国では外国人や移民も医師として数多く受け入れられており、Trainee の人種、年齢は非常に様々で、女性病理医の割合も高い印象でした。多様な価値観が認められる風潮は好ましく感じつつも、個人が病理専門医と認められるための道のりは日本より厳しく、競争も激しいようでした。しかしその分、彼らはとても勤勉で、エネルギーにあふれ、高い志を抱いており、今後の自分の病理医としての生活に大きな刺激を与えてくれました。

このたびは、日英両国の病理学会の皆様のお力添えにより、このような大変貴重な経験をさせていただくことができました。心より感謝いたします。

### (3) ジュニア研究者派遣

渡邊 麗子 静岡県立静岡がんセンター病理診断科

光栄にも今年の日英病理学会交流事業の一環として、第 26 回欧州病理学会学術集会 (26th European Congress of Pathology) ならびに英国内の施設見学の機会を与えて頂きました。日本病理学会ならびに英国病理学会の関係者の皆様には、心より厚くお礼申し上げます。

学会期間中は、学術プログラムにあわせて聴講、最終日にはポスター発表と、通常の国際学会らしく過ごした一方、「日本病理学会からのお客様」としての別枠の歓待も頂き、オプションのツアーにも楽しく参加させて頂きました。これら英国流「おもてなし」を通して、お世話いただいた諸先生、さらには我々の身の回りを気遣ってくれた Trainee (後期研修医) 達の優しい心根に触れ、今も感謝の思いでいっぱいです。学問的な話から病理業務、日常生活の些細な話まで、とくに Trainee 達とは以前から友人だったかのように、沢山話をしました。また彼らが大変よく勉強し、

高い目的意識をもって勉強、研究に励んでいることも容易に理解でき、とくに Trainee 達が企画開催したセッションは見事なものでした。

後半の施設見学に関しては、東北大学 笹野公伸先生に便宜を計っていただき、教授 Wells 先生のおられる Sheffield 大学病院、ならびにその近隣の Chesterfield Royal Hospital での見学の機会を頂き、信州大学の浅香志穂先生と 2 人 1 組となって、出かけて参りました。大学病院ではおもに研修医指導体制の現場が中心でしたが、午後には研究施設も見学させていただきました。基幹病院では「精度管理」の向上を目指した技師、医師との共同作業現場の随所に、非常に参考となる、あらゆるメッセージを読み取ることができました。ちょうど当院が、臨床検査質における国際標準化機構 (ISO) の認定にむけて準備を始めた事もあり、作業の効率化、品質・サービスの向上を実現させるための方策について考える、非常によい参考例となりました。

多くの方々の協力と親切のおかげで、無事事業を遂行できたことに、改めて感謝致します。

## お知らせ

### 1. 平成 26 年度乳幼児突然死症候群 (SIDS) 対策強化月間の実施について

11 月 1 日 (金) から 30 日 (土) までは標記強化月間です。詳細は以下厚生労働省ホームページご参照ください。  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000062600.html>

### 2. 「図解による顕微鏡入門」技術講座について

日 時: 平成 27 年 2 月 18 日 (水)

場 所: 機械振興会館別館 4 階

主 催: 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

申込期限: 平成 27 年 2 月 11 日 (水) (定員になり次第締切)

問合せ先: 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

電話: 03-3435-9321 Fax: 03-3435-9567

E-mail: [info@joem.or.jp](mailto:info@joem.or.jp)

URL: <http://www.joem.or.jp>

### 3. 日本光学会第 41 回冬期講習会について

テーマ: 光と生体観察・計測

日 時: 平成 27 年 1 月 22 日 (木), 23 日 (金)

場 所: 東京大学本郷キャンパス山上会館

主 催: 一般社団法人 日本光学会

申込締切：平成 27 年 1 月 10 日（金）（定員になり次第  
締切）

詳細・申し込み：<http://www.osj-jsap.jp/>

お問合せ：日本光学会講習会事務局

Tel：090-9314-4401 Fax：03-3579-9756

E-mail：info@myOSJ.or.jp

#### 4. 第 56 回藤原賞について

標記賞につき，本学会からの推薦を希望される場合は，  
事前に公益財団法人藤原科学財団ホームページ

<http://www.fujizai.or.jp/download.htm>

をご確認の上，12 月 26 日（金）までに本学会事務局宛ご  
連絡下さい。

#### 5. 日中医学協会 2015 年度「共同研究等助成金」「若手 在留中国人研究者助成金」募集

募集期間：平成 27 年 1 月 15 日まで

詳細：<http://www.jpcnma.or.jp/>

問い合わせ：財団法人日中医学協会

担当：岡田・金

電話：03-5829-9123 FAX：03-3866-9080

E-mail：jyosei@jpcnma.or.jp（中国語可）





